

真崎地区 村政懇談会

日 時：平成23年7月6日（水） 午後7時～9時

場 所：真崎コミュニティセンター 会議室

参加者：村執行部（村長，副村長，教育長，理事，総務部長，総合政策部長，福祉部長，経済環境部長，建設水道部長，消防長，教育次長，議会事務局長）

事務局（副参事，課長補佐，自治推進課職員3名） 計17名

自治会長（真崎区，舟石川3区，原子力機構荒谷台区）

一般社団法人自治会連合会（事務局長，事務局員2名）

参加者：真崎区…48名，舟石川三区…14名，

原子力機構荒谷台区…5名，その他…39名

計106名

司会進行：舟石川三区自治会長

1. 開会
2. 地区自治会長あいさつ
3. 村長あいさつ
4. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
5. 東日本大震災の被害及び復旧状況について（総務部長）
6. 質疑応答
7. （仮称）ひたちなか・東海クリーンセンターによる可燃ごみ処理及び消防の広域化について
8. 質疑応答
9. 自由質問
10. 閉会

1. 開会

2. 地区自治会長あいさつ

みなさん，こんばんは。たいへんお忙しい中，たくさんの方々にお越しいただき村政懇談会が盛大に開催できますこと心からお喜び申し上げます。また，真崎区，舟石川3区，原子力機構荒谷台区の各自治会の運営につきまして，何かと御高配をいただいていることを，この場を借りて御礼申し上げます。

さて，この村政懇談会の開催の趣旨ですが村民主体の行政を進めるため，村長を始め村の各執行部の皆さんが小学校区ごとに年1回お出ましをいただいで，村政に関するいろいろな説明をいただくとともに意見を聞いて協働のまちづくりを進めるということの意味で開催しております。限られた時間ではございますが率

真崎地区 村政懇談会

直な御意見をいただければ幸いです。

平成18年に自治会制度に移行いたしまして今年で6年目を迎えました。平成22年度には地区自治会をスタートいたしました。また、平成23年度には自治会連合会の一般社団法人格を取得するまでに至りました。この間、皆様方には自治会連合会へ御理解、御協力をいただきましたことに感謝を申し上げますとともに、一歩、一歩ではございますが着実に住民主体のまちづくりと申しますか、自治意識の高揚が進んでいると思っていますところでございます。

特に今回の震災における各避難所におきましては、様々な課題がございました。けれども、住民の皆様の主体的な活動がなされたこともあって、大きな混乱もなく避難された方々に対して、それなりの対応ができたことについて、ある意味でこの地区自治会に移行した大きな成果に繋がったのではと思っていますところでございます。今回の震災でも、各地区自治会長、単位自治会長から、「様々な課題について自治会連合会で取り纏めたらよいのではないかと」と御指摘、御意見をいただきました。それは、とりも直さず、様々な課題について、各自治会長が同じ情報を共有化して、様々な課題に対応していくという意味合いがあるのだと思いますし、近いうちにまとめたものを行政に提案するというところで準備を進めております。

この真崎地区自治会といたしましては、震災後の第1回目の運営委員会を4月19日に開催いたしまして協議をいたしました。これを何点か御紹介させていただきますと、「災害用の備品を避難所に配備する必要があるのではないかと」という御意見、それから「住民の避難所となったコミセンの責任者は誰なのか」という御意見、「避難所で支援活動ボランティアとして参加してくださった方々が長期的な支援になったときのローテーションはどうするのか」、停電がありましたが「ディーゼル発電機を設置する必要があるのではないかと」、「井戸水の設備を公共施設内に設置してはどうか」という御意見もございました。また、「避難所での行政、コミセン、自治会の役割分担をもう少しルール化してはどうだろうか」というお話もございましたし、さらに、「避難所で生活する方々に自助を促す必要もあるのではないかと」というような御意見もございました。このような御意見を今回自治会連合会で取りまとめた要望の中に真崎地区として出させていただきたいと思っております。

いずれにいたしましても、今年の4月からスタートいたしました第5次総合計画を行政と協働で事業を推進していくということが真崎地区自治会の規約第1条の目的に記載されているところでございまして、その推進を図っていかねばならないところでございます。この地区が安全で、様々な課題はございますが安心して住んでよかったと思えるような地域にするために第5次総合計画の理念であります「村民の叡智を結集して住民のためのまちづくり」を進めていかなければ

真崎地区 村政懇談会

らないだろうとっておりますので、ぜひ皆様方におかれましても今後の自治会活動に、今まで以上の御支援、御協力をいただきますようお願い申し上げます。本日はお疲れ様です。

3. 村長あいさつ

皆さんこんばんは。今年初めての村政懇談会に御出席いただきましてありがとうございます。

さて、東日本大震災からまもなく4か月が経過しようとしております。本当に未曾有の大災害、約2万2千人の方がお亡くなり、行方不明になっております。茨城県も東海村もたいへんな被害を被っております。昨日も民主党の岡田幹事長や農林水産大臣に東海村の被害状況を報告してまいりました。東北三県に比べて茨城県が忘れられていますけれども、たいへんな被害を被りました。そして福島第一原発の事故も加わっており終息もままなりません。そして今でも10万人近い方が避難しておりますし、深刻な状況も見えてきました。東海村も原発を抱えている村として他人事ではないという気持ちでございます。

3月11日には、東海村でも15か所に避難所を置きまして、3,500人の方が避難された。この真崎コミセンでも真崎地区自治会の方々が中心になって避難された方のお世話をしてくださいます。本当にありがとうございました。避難された方々からは感謝のことばが私どもに届いてございます。

今日は震災後ということで、例年であれば私が今年度の村政の運営を中心に、また予算状況について説明申し上げましたが、皆さんも話をしたいと思っておりますので、私のほうは5分でやめさせていただきます。

ひとつは震災でいろいろな経験を積みました。黒羽根地区自治会長からも話があった「災害に強いまちをつくろう」という件でございます。我々も災害に強いまちづくりを本気になって作っていかねばならないと考えているところでございます。今のところ未だ自治会連合会から正式には届いておりませんが（7月8日自治会連合会より受理）、その前の意見の集約段階で為になることがたくさん書いてございますし、今回の対応が十分でなかったと改めて感じてございます。今日は皆さんからも御意見をいただきたいと思っております。

一つは震災後の被害状況、もう一つは、ひたちなか市と可燃ごみ処理と消防の広域化について協議しております。平成24年度からは、ひたちなか市と合同でやっていこうという形になりますので、そのことについて御説明いたしますとともに御意見を頂戴したいと考えております。

そして、今日の予定には明記されておりましたが、最後の自由意見で原発事故への対応について。私もマスコミの前でいろいろ話しておりますので皆さんから御意見があろうかと思っておりますので、東海村が原発とどのようにして向き合ってい

真崎地区 村政懇談会

けばよいか、共存共栄ということでやってまいりましたが、その点についてもどのようなことが必要かという御意見を頂戴できればと思っております。どうかよろしく申し上げます。

4. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）

5. 東日本大震災の被害及び復旧状況について（総務部長）

6. 質疑応答

○はなみずき住民

子どもが2人、小学校に通っています。6月初めに各小中学校の校庭の空間線量を測っていただき本当にありがとうございました。ただ、私の印象としては既に小学校に通っている、体育の授業もやっている、その後から空間線量が出たということで、私も、また周りのお母さんからもだいぶ不安の声が上がっていました。今回の震災は被害が大きくてなかなか手が回らないということは、私の生活も含め実感はしているのですけれども、やはり順番としてはそういうものを先に出して授業を再開してもらったほうが親としても安心できたと思います。

あと、学校というのは、子どもたちが通う場所だけではなく、先生や職員の方たちが働く職場ですので、そういう方の職場の環境、安全を守るという意味でも整備をよろしく申し上げます。

空間線量ですがA地点、B地点、C地点という書き方で、その地点が、校庭や園庭のどの地点なのかホームページでは場所が読み取ることができません。それから茨城県の空間線量が高いのか低いのか、人体に影響が出ているのかというのが、私も素人なので良く分かりませんが、最近言われているホットスポットという、実際には低いものけれども、場所々では実はかなり線量が高いというのが福島県から離れていても出ています。私の住んでいるところは小学校のすぐ上なのですが、そこでも個人的に測った方が、例えば目の前のここを測って0.11マイクロシーベルト/hくらいだと、では40cm離れると線量が倍になる、神経質になると切りがないのですが、細かく測らないとどういう状況になっているか分からないという話も聞いておりますので、ぜひもう一度校庭を細かく測ってもらいたいと思っております。いかがでしょうか。

○経済環境部長

県で設置している7か所のモニタリングステーションは3.5mのところでは放射線量を測定しております。学校が問題ではないかということで、学校、保育所など子どもたちがいるところを測定し、先日、広報にも掲載しました。放射線量は3cm、5

真崎地区 村政懇談会

0cm, 100cmのところで測定を行いました。測定箇所ですが、真ん中を基点にして対角線を書いてその中心と四方を測りました。これからの測定ですが月2回ずつ測っていきたいと考えております。また、学校には放射線量を測る機器がありますが、先生が測りながら授業を行っております。保育所、幼稚園にはないものから早急に発注して購入してまいりたいと考えております。

○教育次長

いろいろ御心配があらうかと思えます。私ども学校の方では空間線量を測っております。3月11日以降、子どもたちが出てくるときは必ず朝、室内、室外を自主的に確認しております。そのようなデータもございます。ただ、村発表になったのが最近でございますが、学校は自己管理として、空間線量を測っております。

○真崎区住民

すごく単純な質問です。原子力事故で福島県と同じような地震が来たときに「東海村は大丈夫ですか」という質問をよくされます。すごく単純なのですがどうお考えですか。

○経済環境部長

日本原子力発電所で5.4mの津波が来たと聞いております。地震に関して施設は問題がなかったのですが、ただポンプが浸水して3台のうち1台の発電機が停止したとの事です。これからの対応ですが原電ではいろいろな対応をとっております。発電機の設置や海水ポンプの嵩上げ、ドアを密封するなど、いろいろ対策をとっております。

嵩上げも6.1mから更に1.5m上げるとか、15mの津波を想定した対策をとっております。

○真崎区住民

私が聞きたいのは福島県と同じ規模の地震、津波がこの地域に来たときに今の原子力施設はどうだったのかということだったのです。これからの課題なのでしょうけれどもそれについては誰でも考えていることなのです。率直に聞いたり、認識しているかを聞きたかったのです。

○村長

福島県と同じ規模の10mとか15mの津波が来たら完全にアウトです。

原電のほうから私のところに届いた一報は3月11日の午後11時過ぎでしたが、その点については原子炉内の圧力、温度、水位、サプレッションプールの水位、この

真崎地区 村政懇談会

4点でしたが、温度の上昇はなく気圧が順調に低下していて水位も下がることがないということであれば炉心が露出することはないだろうと判断していました。

ただ、私は女川も同じく心配していました。福島と同じ津波が来て東海も女川も水没していれば今以上に同じように大惨事になっていたと思っております。

7. (仮称) ひたちなか・東海クリーンセンターによる可燃ごみ処理及び消防の広域化について

8. 質疑応答

○舟石川一区住民

ゴミ処理の話で村長から率直な意見を聞かせてくださいということだったので、こちらで不明な点があるので教えていただきたいのですけれど、最初に配られた資料の37ページの4「搬出方法やごみ処理手数料が変わります」ですが、この中で集積所は広域化しても変更はありませんと書いてあるのですけれど、集積所というのは各班で決めています。班で集積所が決められています。新規で村に住むとき、既存の班に入らせてくれといっても「人数が多いから入らないでくれ」といわれてしまう場合がございます。班に入れない世帯というのは、新しい清掃センターがひたちなか市ということによってちょっと遠くなってしまっているのが現状です。

今は、班に入れない人は村の清掃センターに直接持ち込むことが可能なのですが、今の清掃センターに直接持ち込めないということになるのです。新しく班を作ればよいのではないですかといわれますが、適当な場所が見つからないときがあります。

新しい住民、班に入れない人のごみの搬出が遠くなることについてどう考えているのか聞かせてください。

○村長

それは大変深刻な話ですね。せっかく班を作っても入れないでは。

よそから入って来るとなると地元知り合いがない。土地を貸してくれない中ではひたちなか市まで持っていかなければならない。この問題は村としても考えなければなりません。例えば、今の清掃センターにどうでしょうか、暫定的に清掃センターに置き場所を作る。そこを集積として車が回ればよい。それも一つの手だと思います。我々としても真剣に考えていきますし、自治会連合会としましても加入率を上げたいと思っておりますので、自治会長にも協議してもらいたいと思います。

○経済環境部長

ごみ集積所ですが、自治会に加入して5世帯の編成ができれば集積所が設置できま

真崎地区 村政懇談会

すが、設置場所がないというのであれば、集積所については自治会長を經由していただき、自治会長からの要請があれば設置場所が決まるまでの間については考えてまいります。

○舟石川一区住民

自治会長には相談をしています。相談をしても場所がないのです。「道幅がなくてだめです」と自治会長は安全性を考えます。探しに探したのですがだめで本当に困っている状況です。村長からありがたいお話をいただきましたので期待します。

○村長

自ら見つけるようにいってきましたが、ここまできたらごみ減量化をしましょう、循環型社会をと、言い出したのは行政なので行政も集積所を見つけなければならないと考えております。

9. 自由質問

○真崎区住民

国道245号線の拡張の件ですが、今回の震災で計画がストップされたのか、継続を予定されているのかお聞かせください。

○建設水道部長

国道245号線は平成22年度に4車線化に着手しております。平成22年度の整備状況を報告させていただきます。予算が2億5,500万円ございました。内容は用地買収と1軒の補償がありました。村松コミュニティセンターの歩道整備を行いました。平成23年度は1億5,000万円と確認しております。内容は工事と補償、用地買収と聞いております。事業箇所ですが、当初2ヶ所ということで、原子力機構核燃料サイクル工学研究所と原子力科学研究所前から工事を進める予定でしたが、原子力科学研究所前は用地交渉に時間を要するということで、変更して日本原子力発電所前から整備を始める予定です。厳しい状況ですが続けてまいります。

○真崎区住民

私の地域は区画整理に入っているのです。近くに80歳代の御夫婦が住んでいます。いつ動くのか役場に聞きに行ったそうです。あと何年で動くのか教えてください。

○建設水道部長

中央地区かと思いますが、今日は函面を持ってきておりませんので時間があれば役場に来ていただければお話をさせていただきます。

真崎地区 村政懇談会

担当課の説明で分からないという回答をしたのかと思いますけれども、改めて事業整備計画ですが予算と年次計画に基づいて整備を進めてまいりますので、そのあたりを説明させていただきます。

○真崎区住民

この時勢ですので遅れるのはしょうがないのですが、10年先までは遅れませんよね。やらないならやらないと言ってくだされればいいのですが、修理もしたいですのでよろしくお願いします。

○舟石川三区住民

災害援助計画についてお聞きいたします。3年前から始めていますが、いつ実行できるようになるのでしょうか教えてください。

○福祉部長

実は3月中に計画をまとめて4月から実施したいと考えていましたが3月11日の震災で計画のほうか頓挫しております。改めて8月中に再度、自治会、地区社会福祉協議会、民生委員を含めた検討委員会を再開いたしまして、遅くとも今年度中には実行したいと思います。3月11日の経験を踏まえ見直さなければならぬところもありますので検討委員会でまとめてまいりたいと考えております。

○舟石川三区住民

今年度中ですね。いつやるか、どのようにやるかも、何も決まっていません。それなのに毎年、同意書を求めるというのはどうなのでしょう。悪徳商人から身を守るために「判子押すなよ」と言ってきています。行政がやるものには何も決まっていなくても判子を押させるのでしょうか。こういうやり方はやめていただきたいです。

○福祉部長

個人情報提供に関する同意ですが、同じ人に毎年もらうわけではありませんので、一度同意をもらっていただければ、次の年はその方には同意をもらいに行っておりません。

同意をいただいていない方からもなるべく同意をいただきたいということで、できれば全員の方から同意をいただければ、隣り近所の方に情報提供ができて有効な支援に繋がると思いますので御理解をいただきたいと思っております。

○舟石川三区住民

内容が決まっていないのに同意しろというのはおかしい。誰が救助に行くのですか。決まっていないのに。

真崎地区 村政懇談会

○福祉部長

誰がどのように支援するのかが決まっていないので、同意がとりにくいというのもあるかと思います。同意といっても強制ではありませんので、いただければ幸いですということを御理解いただきたいと思います。

○舟石川三区住民

「同意しないとどうなるのでしょうか」と質問したら、災害のときに援助が遅れます。これでは脅迫的な内容にも取れるのです。3年目です。最初の年に同じ質問を受けたときに、これは大変だと思いました。たぶん消防署か役場の方が救助に行くのでしようと答えたのです。役場に行ってそれに対して質問したのですが未だに返事をもってきていません。毎年、毎年同意書をとれと。やりすぎだと思います。

○司会

3月11日の震災で、やはり、今、村が進めている形はどうであれ、何らかの形で必要性は皆さんも理解していると思います。そのための準備段階も含め私たちも何らかの積極的な対応をしていかなければならないと思います。民生委員の皆様も御苦勞なされていますので、村である程度煮詰まった段階で相手先に対する説明できる対応をよろしくお願いします。

○真崎区住民

今日は懇談会なのです。村長から「今日は皆さんとお話をしましょう」というのは大変嬉しいのですが、村長と幹部とのニュアンスが違うような気がします。例えば今日の震災の話、今日は報告会ではないのです。ごみ処理にしても報告会ではないのです。実際は質問者にあつたようにいろいろな問題があるのです。こういう課題があつてこれに対してどうしたいと考えているのか。こう悩んでいるのだよといった問題提起をしてもらったほうが意見は出しやすいと思うのです。ここは国会の場ではないのだから攻める側と守るようなそういう話ではないと思うのです。従つてもう少しリラックスして本音で話してもらつて、我々も意見を出していきたい。これは私の希望ですがよろしくお願いします。

○真崎区住民

東海村に毎年のようにいろいろな出土品が出ていますが、保管する場所がなく、貴重なものを展示するところがないのです。旧白方小学校にあれだけの敷地があるのですから建設して欲しいのです。ここ5年から10年でできるかどうか分かりませんがお願いしたいというのが一つ。それから今度の震災で、各小学校も避難所になって

真崎地区 村政懇談会

いますが、長くは使えないと思うのです。というのは、子どもたちが勉強する場所を奪ってしまうわけですから。東海南中学区には文化センターがあり、中央公民館があり、図書館、体育館があり、よいのですが、東海中学区にはないのです。だから資料館を兼ねた生涯学習センターをぜひとも作っていただきたいです。

○教育長

いつも、後押しをしていただきありがとうございます。できるだけ早く生涯学習センターを作りたいと思っておりましたが、3月11日の震災が起こりまして、学校施設の大幅な補強や耐震工事、改築工事が先に入ってきてまして財源的に厳しくなりました。

皆様が期待しているところ、検討委員会も立ち上げて、具体的な姿が見えてきただけに申し訳なく思っております。

○真崎区住民

資料館を石神城跡に作ろうという計画もあったのですが、「あそこに作るのは相応しくない」という経緯があったのです。村長も教育長も、私も東海中学校区ですので、将来の子どもたちのためにどうかよろしくお願いします。

10. 閉会